

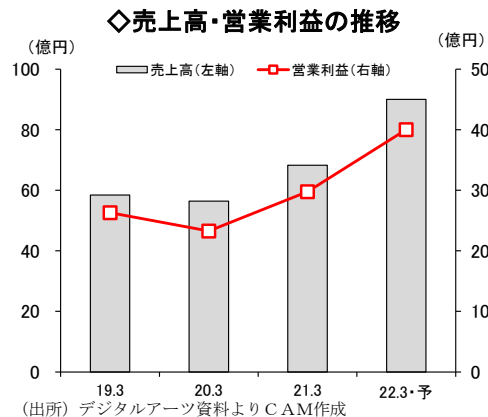
企業ニュース デジタルアーツ

(東証1部 : 2326) <https://www.daj.jp>

作成者: 村上大志

国内フィルタリングソフト専門メーカー

1995年設立。インターネットアクセスに伴う危険を未然に防止するWebフィルタリングの「i-FILTER」および電子メールフィルタリングの「m-FILTER」といった情報セキュリティ事業を展開する。製品の企画・開発から販売・サポートまで一貫して行っており、独自に収集したWebフィルタリングデータベースを持つことが強み。市場調査レポートITR「ITR Market View:サイバー・セキュリティ対策市場2021」によると、2019年度のURLフィルタリング市場における売上金額シェアは50%。21.3期の市場別売上高構成比は企業向け59%、公共向け35%、家庭向け6%。



上期の売上高、営業利益で過去最高、通期計画を上方修正

22.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は売上高が45億5,200万円、前年同期比47%増、営業利益が20億7,900万円、同59%増。売上高、営業利益ともに上期としては過去最高となった。テレワークの普及に伴い企業向けの売上高が同24%増と堅調だったことに加え、GIGAスクールに関する案件獲得によりi-FILTERシリーズが多くの学校で採用されたことで、公共向けの売上高が同96%増と拡大し業績に寄与した。受注残高は63億8,700万円、同162%増と、クラウドサービス系製品の受注が好調で大幅に増加した。

22.3期の会社計画は売上高が90億円、前期比32%増、営業利益が40億円、同34%増。公共向けにおいて官公庁・自治体案件の好調な受注を見込み、通期計画の売上高、営業利益を3億円上方修正した。下期は公共向けで自治体情報システム次期強靱化案件の獲得が期待される。添付ファイルのZIP暗号化からの脱却など、同案件のアウトラインのすべてを自社製品の組み合わせで対応可能となっており、受注拡大が期待できよう。GIGAスクール案件では、未導入の教育委員会に加え無償のフィルタリング導入先からの受注獲得を目指す。

[株価動向・投資判断]

DXの推進により官民でセキュリティ対策へのニーズは高まっている。クラウドサービスの受注が増加しており、ストック型ビジネスの拡大で持続的な成長が期待できよう。

<2326 デジアーツ 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	5,641 (▲3)	2,328 (▲11)	2,326 (▲12)	1,590 (▲19)	113.7	50.00
21.3	6,825 (21)	2,977 (28)	2,991 (29)	2,059 (29)	146.9	55.00
22.3 予	9,000 (32)	4,000 (34)	4,000 (34)	2,770 (35)	197.4	65.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2021/11/19)	10,370 円
年初来高値 (高値日)	10,990 円 (21/2/22)
同 安値 (安値日)	7,470 円 (21/7/29)
予想 P E R (22.3 予)	52.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	788.5 円
P B R	13.15 倍
予想配当利回り	0.63 %
(1株当たり配当金 65.00円)	
R O E (21.3)	22.0 %
発行済み株式数	1,413 万株